

平成23年度事業報告

平成23年度は、その年3月11日に東日本大震災が発生して、自粛ムードや福島第一原発の放射能漏れに対する不安から委縮する心理などが社会を覆ったため、特に前半は人々の動きが少ない傾向が見られ、それが山寺芭蕉記念館・最上義光歴史館の入館者にも影響したと推察される。

山寺芭蕉記念館では企画展「芭蕉の旅と『おくのほそ道』」を行い、芭蕉と旅に焦点をあてた展示を行い5,167名の入館者があった。更に23年度で5回目となる「市民企画展」も開催された。また、第21回文化セミナーでは東日本大震災の後であったので“復興”をテーマに開催したところ、前年対比82%の参加者増であった。一方、第54回全国俳句山寺大会では160人の参加者があり前年対比57%増加があった。英語俳句大会も3年目を迎え570名からの投句があり前年対比86%の増加があった。

最上義光歴史館においては、山形城発掘調査の成果を紹介する企画展「よみがえる山形城 職人たちの技の記憶」を開催、5,374名の入館者があり市民の関心の高さがうかがえた。また、企画展「市民の宝モノ2012」は例年の市民公募ではなく、市が所蔵する市内尋常小学校・高等小学校の卒業制作の書画の優品を掛軸にした「卒業存続」9幅などを公開した。更に、教育普及事業では、特に「こども講座」を強化し、市内の小学校10校に出向いての実施によって、小学生に対する最上義光と郷土史の啓発に努め小学生の来館増への足掛かりとした。

両館とも施設の特徴を生かした事業運営を進めたが、東日本大震災の影響もあり山寺の観光客数は減少し、山寺芭蕉記念館の入館者数も前年対比29.3%の減少となった。一方、最上義光歴史館では前年対比14.1%の減少に留まった。

その他、平成23年度山形県ふるさと雇用再生特別基金事業費補助金交付における嘱託職員の雇用によって両館に関わる英文入り冊子の作成などが行われ、外国人来場者の普及啓発に用いるよう準備された。

平成23年度事業実績報告書

1. 事業計画による主催事業について

山寺芭蕉記念館事業

(1) 展示事業

① 企画展「お雛さまの歴史と美」(22年度事業)

山形市内に伝わる江戸時代の雛人形を中心に展示し、雛飾り発達の歴史とその美を紹介することにより、日本文化の美を考える一助とした。

○開催期間 2月24日(木)から4月10日(日)(延日数30日間)

○入館者数 159

※4月1日から同月10日までの10日間の入館者。

(1,141

※企画展の延入館者)

② 常設展

「芭蕉の生涯」テーマ展示「収蔵名品展」「描かれた芭蕉」「妖怪の美術と歴史」「芭蕉の周辺と蕉門」と題して収蔵品を中心に展示を行った。

○開催期間 4月14日(木)から9月25日(日)(延日数159日間)

○入館者数 9,456

③ 企画展「芭蕉の旅と『おくのほそ道』 —漂泊の俳人の文学—

芭蕉の文学と旅との関係を『おくのほそ道』などを手掛かりに探る。その中で芭蕉が旅を通して俳諧を昇華させた軌跡を辿った。

○開催期間 9月28日(水)～11月13日(日)(延日数47日間)

○入館者数 5,167

○関連事業 ギャラリートーク 10月2日(日)
講師/山本陽史氏(山形大学基盤教育院教授)

参加者25名

10月23日(日)

講師/相原一士(当館学芸員) 参加者13名

④ 常設展

「芭蕉の生涯」、テーマ展示「芭蕉の周辺と蕉門」と題して常設展を行った。

○開催期間 11月16日(水)から12月11日(日)(延日数25日間)

○入館者数 614

⑤ 市民企画展

市民団体から山寺芭蕉記念館の展示室を会場とした展示の企画を募り、選考の上選ばれた団体のアイデアによる展覧会を開催した。

選考を行なった結果、山寺峯の浦地区文化財保存会の「山寺・峯の浦発掘調査

報告展」、和紙絵研究会の「和紙絵作品展」を開催した。

○開催期間 12月14日(水)から1月22日(日)(延日数30日間)

○入館者数 585

⑥ 常設展

- 「芭蕉の生涯」「正岡子規からの近代俳句」と題して常設展を行う。
○開催期間 1月26日(木)から2月19日(日)(延開館数22日間)
○入館者数 443

⑦企画展「お雛さまの歴史と美」

江戸時代の雛人形を中心に展示し、日本文化の美、及び民俗文化を理解する一助とした。

- 開催期間 2月23日(木)から4月8日(日)(延開館数46日間)

- 入館者数 1,078

※3月31日迄の集計

- 関連事業 「毬雛」「押絵飾り」作り教室 3月10日(土)
講師/安部英子氏(お雛様研究家) 参加者10

学芸員によるギャラリートーク 3月18日(日)
講師/相原一士(当館学芸員) 参加者10

(2)普及啓発事業

①第54回全国俳句山寺大会

俳句の普及と振興をはかるため、山寺文化保存会と共催し、名勝山寺の地で芭蕉が訪れた時期に句会を開催した。

- 日時 7月10日(日)

- 選者 金子兜太氏、西村和子氏、權未知子氏、松浦俊介氏、
阿部月山子氏、三井量光氏、鈴木正子氏、

- 事前投句 1,219句

- 大会参加者 160名

②第3回山寺芭蕉記念館英語俳句大会

英語俳句を通して俳句の更なる交流促進、俳句文化の国際交流をはかるとともに、英語教育や文化、観光振興に寄与することを目的として開催した。

- 表彰式日時 7月17日(日)

- 審査委員 飯島武久氏(国際日本文化研究会長/山形大学名誉教授)、
大場登氏(当時、当財団理事長/元山形県英語教育研究会長)、
ジャスティン・オラスキー氏(山形県国際交流協会国際交流
員)

リサ・ソマーズ氏(当時、当財団嘱託職員/翻訳家)

- 投句数 830句

- 参加者数 570

③第21回山寺芭蕉記念館 文化セミナー

広い視野で日本文化と歴史を見つめる講座を開設し、市民文化の向上をはかると共に新たな視点を提示する。今年度は「日本の力と復活 -文化と歴史に学ぶ再生への道-」と題し行った。

- 日時・講師・参加者数

7月31日(日) 講師/鎌田東二氏(京都大学こころの未来研究センター教授)

演題「宗教に学ぶ共生思想と復活 -エコロジー思想と日本の道徳-」参加者 75

- 8月21日(日) 講師/山折哲雄氏(宗教学者)
 演題「日本人と災害と祈り」(山寺学講座との共催)
 参加者 133
 (文化セミナー分99名、山寺学講座分34名)
- 8月28日(日) 講師/山本陽史氏(山形大学基盤教育院教授)
 演題「井上ひさし『吉里吉里人』『ボローニャ紀行』から
 探る東北再生の道」 参加者 80
- 9月10日(土) 講師/宇田川一夫氏(東北福祉大学大学院教授)
 演題「昔話に秘められた生きるための知恵」
 参加者 71

④第42回芭蕉忌俳句大会

俳句の普及と振興をはかるため、山形県芸術文化会議、山形県俳人協会と共催し、山寺の地で、芭蕉を偲び句会を開催した。

- 開催日時 10月30日(日)
- 選者 松浦俊介氏、阿部月山子氏、三井量光氏、鈴木正子氏、黒沢道子氏
- 投句数 650句
- 大会参加者 52

⑤芭蕉を偲んで投句しよう

俳句の普及をはかるため、山寺芭蕉記念館内に投句箱を設置し、投句選を行った。

- 期間 4月から3月迄
- 投句数 88句
- 選者 鈴木正子氏(山形県俳人協会幹事長)

⑥山寺芭蕉記念館子ども俳句道場

「芭蕉を偲んで投句しよう」の小中学生版とし実施した。俳句を通して松尾芭蕉や山寺、山寺芭蕉記念館への理解を深める機会とした。

- 期間 4月から3月迄
- 投句数 65句
- 選者 武田菜美氏(山形県俳人協会常任幹事)

⑦ITに係わる企画と情報管理

インターネットを媒体として、ホームページを活用して様々な情報を発信した。

- アクセス件数
 23年度(平成23年4月1日～平成24年3月31日)のアクセス件数

回数	173,946件 (1日/ 475件)
人数	48,786件 (1日/ 133件)

⑧『芭蕉記念館だより』[年1回]

事業の予告や報告、芭蕉及び「奥の細道」に関する情報の公開を行ない山寺芭蕉記念館の活動の周知に役立てた。

(3)茶席事業

①「市民茶会」開席

山形茶道宝紅会の協力により、抹茶又は煎茶の呈茶を行い、茶道文化の啓蒙普及を図るため実施した。

○期 間 4月～11月

○実施状況

実施月	日 数	利用者数 (人)
4月	0	0
5月	5	275
6月	3	146
7月	1	98
8月	1	86
9月	4	190
10月	5	248
11月	3	205
合 計	22	1,248 (△36.2)
前年度	27	1,959

() 内は前年度同期比 (%)

②「茶房 芭蕉堂」開席

抹茶の呈茶を常時行い、茶道文化に親しむ一助とするため実施した。
12月から3月までは受付ロビーで開席。

○期 間 4月～3月 (市民茶会開催日等除く)

○実施状況

実施月	日 数	利用者数 (人)
4月	8	57
5月	22	135
6月	20	110
7月	18	138
8月	28	261
9月	20	134
10月	25	330
11月	22	297
12月	22	0
1月	23	0
2月	24	3
3月	31	23
合 計	263	1,488 (△20.6)
前年度	246	1,875

() 内は前年度同期比 (%)

③山寺感謝の茶会

山寺地区民に対し、平素から山寺芭蕉記念館の事業に理解と協力を頂いて

いることへの感謝の意を表して呈茶を行った。

- 開催日 11月23日(水・祝)
- 場所 山寺芭蕉記念館 立礼席
- 参加者 63

(4)収蔵資料の貸し出し

①最上徳内記念館

- 貸出資料 《『殺生石後日怪談』》曲亭馬琴 著
- 期間 7月29日～8月30日
- 内容 企画展「妖怪と幽霊図展」のため

②山形まなび館

- 貸出資料 《山寺》菅野矢一 画
- 期間 10月22日～11月6日
- 内容 第4回山形市所蔵美術品展・寄贈記念「菅野矢一回顧展」のため

③山形まなび館

- 貸出資料 《芥子雛》、《雛人形(五段飾り)》
- 期間 2月23日～3月21日
- 内容 「城下町やまがた雛まつり」のため

④横須賀美術館

- 貸出資料 《子規庵写生帖》正岡子規、他 筆
- 期間 2月11日～4月15日
- 内容 「正岡子規と美術」展のため

最上義光歴史館事業

1. 展示事業

①企画展「市民の宝モノ 2011」(4月1日から同月10日まで前年度継続)

山形市民を対象に、所蔵する「宝モノ」を募集して、歴史館の展示室に展示し、広く一般に公開する市民参加型の展覧会として開催。出品された「宝モノ」にまつわるユニークなエピソードなどを紹介した。出品者19名/出品件数38件

- 期間 1月12日(水)から4月10日(日) (延日数64日間)
- 入館者数 207

※4月1日から同月10日までの9日間の入館者。

(2,167

※企画展の延入館者)

②常設展示 I 「鐵[kurogane]の美 2011 ～郷土の刀工たち～

歴史館の収蔵刀剣から本県ゆかりの刀鍛冶(室町時代から現代まで)の作品12振を展示し、山形と刀鍛冶の関係や武士の魂とまでいわれる日本刀のすばらしさを紹介する機会とした。展示資料12点

- 期 間 4月12日(火)から7月10日(日) (延日数79日間)
○入館者数 5,376

③特別公開「坂紀伊守像」

最上義光の重臣で長谷堂城主・坂紀伊守光秀の肖像画(山形県指定文化財山形市・清源寺蔵)を、その命日(4月26日)にちなんで特別公開した。

- 期 間 4月26日(火)から5月15日(日) (延日数19日間)

④常設展示Ⅱ「女性のお洒落と装い」

～パネル展示『最上義光ゆかりの女性たち』～

最上家ゆかりの女性を紹介するとともに、戦国時代から近代までの女性の服飾品(和装)や調度品等を展示公開することによって、当時の女性たちの日常と美に対するこだわりを紹介した。展示資料22件

- 期 間 7月12日(火)から10月10日(月) (延日数80日間)
○入館者数 7,705

⑤企画展「よみがえる山形城『職人たちの技の記憶』

～本丸一文字門発掘調査の成果より～

山形城発掘事業を担当する山形市教育委員会に協力を依頼し、山形城の発掘事業によって出土した遺物などを展示公開し、出土遺物からみる発掘事業の現状や成果の一端を紹介する展示とした。展示資料107点

- 期 間 10月12日(水)から1月9日(月) (延日数73日間)
○入館者数 5,374

⑥企画展「市民の宝モノ2012」

～「卒業存績」と『最上義光公百万石行列絵巻』～
〔継続企画〕

山形市民の宝物として、山形市が所蔵する市内尋常小学校・高等小学校の書や絵画の優品を年度毎に一枚の掛軸にあつめた「卒業存績」9幅と「最上義光公百万石行列絵巻」5巻を展示紹介した。

- 期 間 1月11日(水)から4月8日(日) (延日数77日間)
○入館者数 2,210名 ※3月31日までの集計

(2)普及啓発事業

①歴史講座「義光塾」

最上義光歴史館サポーターを対象に、最上義光や郷土の歴史について多角的に学習して、サポーターの養成とスキルアップを図った。

○日時と内容、講師、受講者数

6月18日(土) 15時から17時まで

「山形の歴史を語る会 第1回テーマ『最上義光とやまがた』」

講師/片桐繁雄氏(上山市立図書館長/元最上義光歴史館事務局長)

受講者 22

9月26日(月) 9時30分から12時まで

「館内案内のための英語講座」
講師/リサ・ソマーズ氏(当時,当財団嘱託職員/翻訳家)
受講者 16

10月15日(土) 9時30分から11時30分まで
「山形城本丸一文字門の発掘調査の成果について」
講師/五十嵐貴久氏(山形市教育委員会社会教育課主査)
受講者 16

12月14日(水) 14時から17時まで
「山形の歴史を語る会 第2回テーマ『最上義光と女性たち』」
講師/片桐繁雄氏(上山市立図書館長/元最上義光歴史館事務局長)
受講者 22

2月25日(土) 13時30分から16時まで
「謎の天守閣図面 ー山形城にも天守閣計画?ー」
講師/吉田 欽氏(山形県立米沢女子短期大学教授)
受講者 28

②歴史講座「郷土史講座」

一般市民を対象に伝統工芸や文化財について学習して郷土の歴史と文に対する理解を深める一助とした。

「拓本と裏打ちの体験講座」

○日時 3月3日(土)、10日(土)、17日(土)

※毎回13時30分から(約3時間)

○講師 土屋威夫氏(土屋光雲堂店主)

○受講者 12

③こども講座「ヨシアキ☆すく〜る!? -山形の殿様、義光公を知ろう!-

最上義光歴史館サポーターの会「義光会」とタイアップして、山形市内の小学校に出向き、最上義光を中心に郷土の歴史や文化を学ぶ機会をつくり、郷土史に対する関心と理解を深め、愛郷心を育てる一助とした。

○日時、実施校、学年、受講者数、講師

7月20日(水) 11時から12時まで

山形市立東小学校 四年生 73

講師/最上義光歴史館サポータークラブ「義光会」4

10月6日(木) 13時50分から14時50分まで

山形市立大曾根小学校 四年生 10

講師/最上義光歴史館サポータークラブ「義光会」4

10月7日(金) 13時55分から14時55分まで

山形市立第四小学校 四年生 46

講師/最上義光歴史館サポータークラブ「義光会」4

10月12日(水) 14時から15時まで

山形市立第七小学校 四年生 78

講師/最上義光歴史館サポータークラブ「義光会」4

10月14日(金) 13時50分から14時40分まで

山形市立西山形小学校 四年生 17

講師/最上義光歴史館サポータークラブ「義光会」4

10月18日(火) 10時55分から11時55分まで

山形市立村木沢小学校 四年生 20

講師/最上義光歴史館サポータークラブ「義光会」4

10月25日(火) 10時50分から11時50分まで

山形市立本沢小学校 四年生 17

講師/最上義光歴史館サポータークラブ「義光会」4

12月1日(木) 14時から14時45分まで

山形市立第一小学校 四年生 29

講師/最上義光歴史館サポータークラブ「義光会」5

12月6日(火) 11時から11時50分まで

山形市立みはらしの丘小学校 四年生 52

講師/最上義光歴史館サポータークラブ「義光会」5

12月16日(金)

山形大学附属小学校 四年生 126

1回目 13時10分から13時50分まで 受講人数80

2回目 14時から14時45分まで 受講人数46名
講師/最上義光歴史館サポータークラブ「義光会」5

○総受講者数 学校数10校 参加者数468

(3)調査研究事業

①最上家関係資料・史跡調査〔継続事業〕

県内外に残る最上家等に関わる文書資料や文化財・史跡などの調査研究を進め、写真撮影等による記録保存及び目録作成、複写等の資料整備を行う。

(4)その他の事業

①ITに係わる企画と情報管理

インターネットを媒体として、ホームページを活用して様々な情報を発信するとともに、企画から物販まで幅広く展開する。

○一般ページのアクセス件数

回数 454,597件 (1日/1,242件)

人数 113,484件 (1日/310件)

○こどもページのアクセス件数

回数 16,209件 (1日/44件)

人数 5,133件 (1日/14件)

受託事業

(1)外国語による展示解説等整備事業

山寺芭蕉記念館及び最上義光歴史館来館者への外国語による施設案内誘導表示・展示解説キャプション等の作成を行った。(ふるさと雇用再生特別基金事業費補助事業)具体的な内容としては山形市在住の外国人1名を採用し、英語解説キャプション約10枚の作成、英語の冊子2種類の作成、英語圏の入館者の案内解説、英語俳句大会等の業務を行った。

